

令和七年学力検査

全日制課程

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐこの表紙に受検番号を書きなさい。続いて、解答用紙に氏名と受検番号を書き、受検番号についてはマーク欄も塗りつぶしなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙のマーク欄を塗りつぶしなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、解答することをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

国語

一次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

(『14歳からのケンチク学』所収)

本江正茂「あらかじめ、つくり方をつくる」による

(注) ○ ¹ ⁶ は段落符号である。

○ 厨房^{ちゆうぼう}台所。

○ プロセス^{いきち}過程。

○ 閾値^{いきち}ここでは、程度のこと。

○ オートマチック^{いきち}ここでは、自動変速装置のこと。

○ 標準化^{いきち}品質、形状、寸法を標準に従って統一すること。

○ アクチュエータ^{いきち}エネルギーを機械的な仕事に変換する装置。

(一) 「A」、「B」にあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 「A」また 「B」でも

イ 「A」また 「B」すなわち

ウ 「A」なぜなら 「B」でも

エ 「A」なぜなら 「B」すなわち

(二) 第二段落の内容について述べた次の文の「X」から「Z」までにあてはまることばとして最も適当なものを、あとのアからオまでのの中からそれぞれ選びなさい。

建築は、各部屋がそれぞれの「X」を発揮するように配置され、秩序だてられた「Y」が適切に置かれて「Z」にとつての快適性が保たれることにより成立する。

ア モノ イ 関係 ウ 社会 エ 使い手 オ 機能

(三) ① これは決して当然のことではない とあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア モノの製作者が使用者である場合には、「つくり方」は製作者の頭の中にあり、つくりながら修正されるものであるから。

イ 使いたい人が自分でモノをつくっていた時代には、天然の材料を使うことが多く、イメージどおりに加工しやすかったから。

ウ 使いやすいモノをつくるには、決められた「つくり方」にこだわらず、つくり手にとつてつくりやすい形に変える必要があるから。

エ 住む人間にとつて使いやすい建物をつくるには、あり合わせの材料でつくる料理などとは異なり、妥協が許されないから。

(四) 次の文章は、第四段落以降に述べられている建築に関する筆者の考えを、ある生徒がまとめたものである。この生徒の文章に対する評価として適当でないものを、あとのアからエまでのの中から二つ選びなさい。ただし、マーク欄は一行につき一つだけ塗りつぶすこと。

素朴な物づくりでは、つくり方はあらかじめ外在的に示されておらず、つくられるモノとそのつくり方は一体である。しかし、つくる対象が大規模かつ複雑で、多種多様な主体が関わり、使う人とつくる人が異なる場合には、製作作業にかかる前にあらかじめつくり方を記述し、共有することが必要になる。このとき、つくられるモノからつくり方が分離し、つくり方が情報として独立して操作されるようになり、施工者ではない設計者としての建築家が誕生した。

建築は情報の技術であり、人工知能による建築の自動設計がはじまっている。一挙に生身の建築家にとつてかわるわけではないが、人間にとつてめんどろなところや標準化が進んでいるところから、徐々に設計・施工・管理の自動化・機械化が進んでいく。それと同時に、かつてモノから離脱して自立したはずの情報がもう一度モノと一体になり、建築は使いたい人が自分で行うようになるであろう。

ア 情報化が建築にもたらした利益と不利益を明確に整理している。
イ 同じ内容が繰り返されている部分を省略して端的にまとめている。
ウ 本文では別々の文で書かれた部分をつないで流れをよくしている。

エ 建築以外で人工知能による自動化が進んだ具体例を生かしている。
オ 自動化の進行に伴って建築家の仕事が変わる可能性にふれている。
カ 指示する語句や前後の文と文を接続する語句を適切に用いている。

(五)

この文章の論の進め方の特徴として適当なものを、次のアから力ま
での中から二つ選^びなさい。ただし、マーク欄は一行につき一つだけ
塗りつぶすこと。

ア 問いを立て、それに対する答えを示しながら自分の意見を述べる
ことにより、説得力を高めている。

イ 具体例を示し、それらを一般化・抽象化することで、自分の意見
がはつきりと伝わるようにしている。

ウ 仮説を立て、その検証と考察を行うことで、自分の意見が客観的
で妥当であることを示している。

エ 結論を提示し、経験談を交えた複数の根拠を示すことにより、自
分の意見の正しさを強調している。

オ 対立する二つの見方を示し、それぞれに対する批評を行うことに
より、自分の意見を明確にしている。

カ 一般的な考えを挙げ、それを根拠を示して退けることで、自分の
意見を読者に印象づけている。

二 次(一)から(三)までの問いに答えなさい。

(一) 次の文中の傍線部①、②に用いる漢字として正しいものを、それぞ
れあとのアからエまでの中から一つ選^びなさい。

亀の動きは ^①カ ^②マ だ。

① ア 閑 イ 緩 ウ 幹 エ 慣

② ア 漫 イ 満 ウ 万 エ 慢

(二) 次の文中の傍線部と同じ意味で用いられている漢字を、あとのアか
らエまでの中から一つ選^びなさい。

彼の描く絵は、構図が優^れれている。

ア 優^越 イ 優^雅 ウ 優^先 エ 優^柔

(三) 次の文中の「A」にあてはまる最も適当なことを、あとのア
からエまでの中から選^びなさい。

これまで一度も勝てなかった相手に勝てて「A」思^いだ。

ア 目に余る イ 唇をかむ ウ 胸がすく エ 腕が鳴る

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

(『ベスト・エッセイ2016』所収)

小島慶子「インチキ英語の高い壁」による)

(注)

- ○ 1 } 9 は段落符号である。
- 納屋なや＝物置小屋。
- 札付きな＝悪い評判が定まっていること。
- 道程みち＝ある状態に至るまでの過程。
- 非言語の豊穡ほうじやく＝ここでは、言語以外のやりとりが豊かであること。

- (一) 次の一文が本文から抜いてある。この一文が入る最も適当な箇所を、あとのアからエまでの中から選びなさい。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

- ア 本文中の〈1〉
イ 本文中の〈2〉
ウ 本文中の〈3〉
エ 本文中の〈4〉

- (二) ① まるで水から上がったような清澄な風景を私に見せた。とあるが、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選びなさい。

- ア 言葉の意味が理解できるようになり、これからは両親との会話が円滑に進むことに安心感を抱いたということ
イ 文字が読めたり大人の話の内容が理解できたりするのは、両親の教育のおかげであることに気がついたということ
ウ 文字や言葉が身についたことで、本の内容や両親の会話の意味を明確に理解できるようになったということ
エ 本を読んだり両親の話を聞いたりしているうちに、言葉のすばらしさを発見することができたということ

- (三) 次のアからカは、この文章を読んだ生徒六人が、意見を述べ合ったものである。その内容が本文に書かれていることに近いものを三つ選びなさい。ただし、マーク欄は一行につき一つだけ塗りつぶすこと。

ア (Aさん) 筆者は両親が話をしている前で本を読むことを続けるうちに、知らず知らず大人の言葉を覚えてしまい、大人向けの本も読めるようになったために、まだ小学校三年生ぐらいなのに、自分は一人前になったと実感したのだと思います。

イ (Bさん) 筆者の息子たちが言葉を身につける過程の話は、とても興味深かったです。子どもは言葉を身につける前は直感の世界に生きていて、言葉が自分のものになっていくくても、うんと小さい時から大概のことはわかっているものなのですね。

ウ (Cさん) 筆者の長男は、日本語を身につけた後でオーストラリアの学校に通うことになりました。しかし大人への成長途上であって、自分の内面を日本語で十分に表現できないところへ、新たに英語を身につけなければならないので、大変な状況なのだと思います。

エ (Dさん) 筆者によると、小さい頃に身体化した言葉は大人へと変化する心身と不適合を起こすため、一度その言葉を身につけ直す必要があります。それと同時に外国語を新たに勉強すると、小さい頃に身体化した言葉が大人の言葉として定着しやすくなるようです。

オ (Eさん) 筆者の次男は、日本語も英語も自分の内なる衝動を言

い表すだけの力が身についていないために、人と関係を結ぶことが十分にできない年齢です。そのため、日本語の世界と英語の世界のどちらに受け入れられるのか、今はまだわかりません。

カ (Fさん) 筆者自身は子どもの頃に外国語に習熟することはな

ったようですが、長男は日本語を身体化した後で外国語を身体化しつづけます。一方、次男は日本語を身体化する前に外国語の世界に身を置くことになったので、三者三様の言語体験といえます。

(四) 第八段落から読み取ることができる筆者の心境として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア わかり切ったことを答えさせようとする英語教師の姿勢にじれったさを感じていたが、それが英語をうまく話せない自分への配慮であると知り、思いが至らなかった自分を恥じるようになっていく。

イ 自分の内面に深く踏み込む質問をしてくる英語教師に不信感を抱いたが、実は自分の英語力のなさを心配してくれていることに気づき、英語で自分のことが語れるようになっていきたいと思います。

ウ 英語で質問に答えることができない自分へのふがいなさからいらだちを隠せなかったが、自分に寄り添った質問を英語教師がしてくれていることを理解し、感謝の気持ちを抱くようになっていく。

エ 自分について語りたいことは何かという英語教師の質問に戸惑って感情が高ぶったが、その質問を切望したかつての自分を思い出し、それが相手の存在を受け入れる問いであることに思い至っている。

(五) この文章の表現の特徴として適当なものを、次のアからカまでの中から二つ選びなさい。ただし、マーク欄は一行につき一つだけ塗りつぶすこと。

ア 緊迫した場面で擬態語や擬声語を用いることにより、読者にその場にいると思わせるような臨場感を生み出している。

イ 和語と外来語の使い分けにより、英語を習う前と後で筆者の心境が大きく変化したことを表現している。

ウ 倒置法を用いることにより、他者や世界に受け入れられることへの思いの強さや深さを強調している。

エ 筆者の経験を時間軸に沿って写實的に述べることで、全体を通してわかりやすい印象を与えている。

オ 会話文以外でも話し言葉を多用することにより、筆者の率直な思いや感情の起伏を表現している。

カ 筆者以外の複数の視点から一つの出来事を描写することで、筆者の経験が特殊なものではないことを表している。

四

次の古文を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。(本文の……の左側は現代語訳です。)

ア

武士のもとに、力強くして矢をはしらかし、物を強く射さする弓あ

り。主の武士これを愛し、是ををしみて、重き宝とおもへり。ある

大切に

人、この弓をとりて、矢を矧げてひかんとするに、強くしてひくにあた

引くことができない

はず。かるがゆゑに、おとをも射ず、物にも強くも立たず。是がやう

音を立てて射ることもできず

に、力ある人は堂塔をもつくり、法花・真言をもつとめおこなふべきな

寺院の堂や塔をつくり 法華宗や真言宗の修行をすることができに

り。力なきわれらは、念仏の弱弓をもて射ば、おのづから射当つる事も

念仏のような誰でも扱える 自然と

有るべし。たとへば、玄象と云ふ琵琶は、ひかんとすれば手をきらひ

てならず。ひきならはしたる琵琶をもて、おのづから心すみてもおもしろ

弾き慣れた琵琶を弾けば

おもむき深く

きがごとし。念仏の功德も又々、かくのごとし。感じるようなものである

(『宝物集』による)

(注)

○ 玄象 唐からもたらされた琵琶の名器。
○ 功德 善行を積むことによって得られる仏の恩恵。

(一) ① 重き宝とおもへり とあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 高価な材料でつくられた弓であつたから。

イ 矢の威力を高める弓であつたから。

ウ 的中率の高い弓であつたから。

エ 権力者のあかしとなる弓であつたから。

(二) ② ある人 と本文中での位置づけが近いものを、波線部アからエまでのの中から一つ選びなさい。

(三) ③ 手をきらひてならず とあるが、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 手が大きい人でなければうまく弾けないということ

イ 美しい心の持ち主は澄んだ良い音を出せるということ

ウ 音を出すには十分な技量が必要であるということ

エ 弾くことで仏への信仰心がいつそう深まるということ

(四) この文章の内容として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 富や権力をもたない者でも仏の恩恵を受けることができる。

イ 仏によって救われるかどうかは生まれる前から決まっている。

ウ 念仏を唱える際に仏の恩恵を得ようと欲張るのは誤りである。

エ 俗世間を離れて修行を重ねた者だけが仏によって救われる。

(問題はこれで終わりです。)